SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

まえがき

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野 公開日: 2024-04-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 山本, 達也, 長沼, さやか, 彭, 宇潔 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/0002000596

まえがき

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野では、毎年 5 月下旬から 6 月上旬にかけた時期に、4 泊 5 日の日程で静岡県内の調査地に泊まり込み、その土地の人々の暮らしについて学ぶフィールドワーク実習を実施しています。参加するのは本分野に在籍する学部 3 年生です。調査地は教員が選定しますが、その後は学生が文献や統計、地図などの資料を収集し、現地を下見するなど事前準備を進め、自らの関心にそってテーマを設定して本調査にのぞみます。

今年度の調査地は静岡市駿河区久能地区でした。実習期間は 5 月 28 日（日）から 6 月 1 日（木）までで、教員 3 名と学生 7 名（伊藤光、ジン・タオ（Jin Tao）、脊川碧志、竹内敦美、山口ほなみ、山崎紗和子、吉仲琉星）が参加しました。昨年同様、新型コロナ感染対策のため宿泊はせず、西平松公民館を拠点としてお借りし、そちらに毎日通いながら現地調査を実施しました。

明治 22 年の市町村制施行によって久能村という行政区が誕生して以降、現在の 6 町からなる久能の姿を現地の人々は生きてきました。イチゴ狩り農園が点在し、忙しなく車が行き交う 150 号線と並行する久能街道には、久能小学校をはじめとした地域の暮らしにとって欠かせない施設が並び、そこには外からでは見えない久能に暮らす人々の行為の集積が刻み込まれていました。そして、その歴史には台風に代表される数々の災害や、コロナ禍がもたらしたインパクトも含まれています。生活を脅かす数々の出来事の最中でもそれぞれが工夫し、久能で生きてきた人々の姿から学生たちは多くの気づきや学びを得ることができました。

調査にあたっては、たくさんの方々からご支援を賜りました。久能連合町内会長の長島源策さんには、本調査実習の目的をご理解いただき、地域の皆さまに私たちをご紹介いただくなど、多大なお力添えをいただきました。また、初日のお見合いにお越しいただきました皆さんには、学生の調査の一歩目となる情報をご提供いただいたのみならず、地域の方々と学生との橋渡し役にもなっていただき、その後の円滑な調査の進行にご尽力いただきました。ほかにも紙幅の関係上、お名前を申し上げられない皆様をふくめて、この場で厚くお礼を申し上げます。

なお、本報告書の刊行にあたっては、静岡大学人文社会科学部学部長裁量経費の助成を受けました。本報告書の内容は、下記の URL からもご覧いただけます。

http://www.hss.shizuoka.ac.jp/shakai/bunjin/

令和 5 年 12 月

静岡大学人文社会科学部社会学科文化人類学分野

山本達也・長沼さやか・彭宇潔